

‘紅まどんな’の果皮障害対策

着色終期のジベレリン処理で、果梗部の果皮障害(クラッキング)発生割合が低下する傾向が見られた。
糖度・酸度については、ジベレリン処理と無処理で明らかな差は見られなかった。

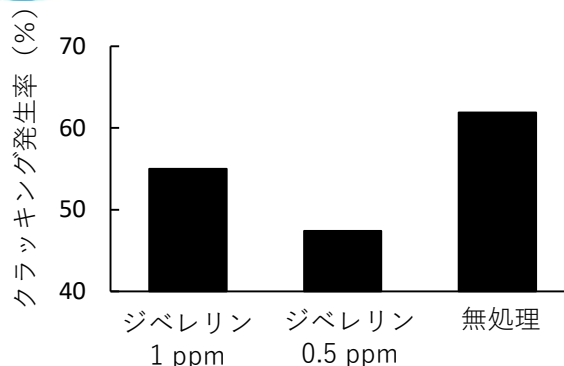
試験区とクラッキング

供試樹：雨よけハウス
高接ぎ17年生紅まどんな
供試剤：ジベレリン
散布日：2017/11/1（着色終期）
散布濃度：1 ppmおよび0.5 ppm
散布方法：樹別散布
反復数：3樹
収穫日：2017/11/28

クラッキング
の程度



果皮障害



ジベレリン処理により、クラッキング発生率が低下する傾向が見られた。

果皮色

試験区	果皮色a値
ジベレリン 1 ppm	23.0
ジベレリン 0.5 ppm	24.1
無処理	25.6
有意性	ns

(調査日 2018年12月1日, nsは有意差なし)

ジベレリン処理により、着色が遅延する傾向が見られた。

クラッキングの変化

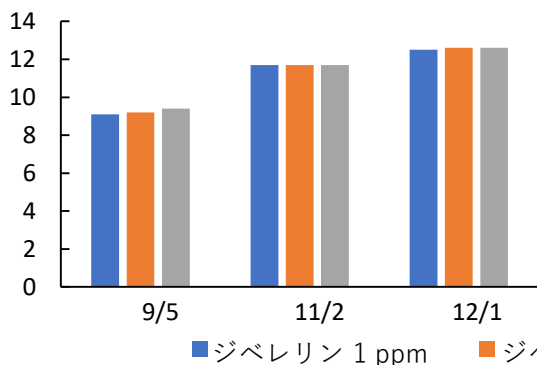


果皮への影響

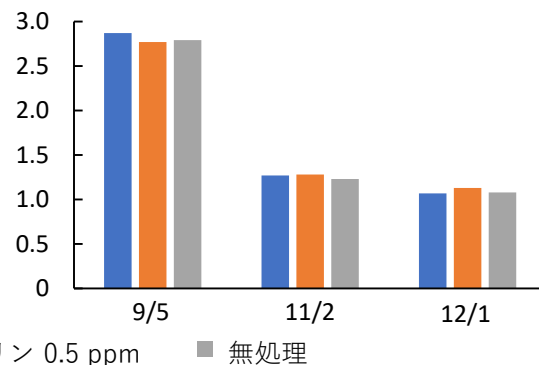


糖度・クエン酸

Brix (糖度)



クエン酸量 (g/100ml)



ジベレリン処理と無処理で糖度・クエン酸含有量に差は見られなかった。

まとめ

- ① 果梗部のクラッキング発生軽減にジベレリン処理が有効であることが示唆された。
- ② ジベレリン処理は低濃度であれば果実品質に大きな影響を及ぼさないと考えられる。
- ③ ジベレリンは処理濃度が高いと着色遅延が懸念される。